

アメリカで育てる

永住や長期滞在の子どもの教育のために

INFOE（海外子女教育情報センター）

松本輝彦

第14 回 どんな方法で 日本人に育てる？ （その2）

今回の「体験的、子どもを日本人に育てる方法」は、「現地校の勉強をしっかりさせる」です。
「現地校は英語で勉強をさせるのに、なんで、日本人？」
今、説明します。私のストーリーにしばらくお付き合いください。

どんな日本人？

これまで何度も申し上げましたが、「大人になった時に、日本人として活躍できる人」が私の意味する日本人です。決して、「子どものレベルの日本語をしゃべれる大人」では、ありません。

これが大切なところです。「大人のレベルの知識や考え方を身につけた人」、あるいは、「自分自身が日本人として振舞わなくとも、日本人の考え方を理解できる人」です。鍵は、大人としての「知識と考え方」、あえて言うならば「日本人の大人としての常識」です。

「日本人の常識」どうして身につくの？

日本人の大人が一般的に持っている常識は、子どもの時に習得した日本語を駆使して、日本の生活環境の中で体得していく知識や慣習です。最近では「常識のない日本人」もよく見かけますが、細かな議論は別にして、日本で普通に生活して来た大人が身につけてきたものと考えましょう。

問題は、「海外で成長して大人になるのに、その常識をどうして身につけるか」です。

この質問に対する答えの鍵は、「日本通の外国人」にあります。たとえ日本語が母語でなくとも、平均的な日本人以上に「日本人の大人」になる人がたくさんいます。昔、数度日本へ行ったことがあるだけの白人の若者が、「一緒に朝日新聞を読むクラスを作って欲しい」と私に言ってきたことがあります。その彼の日本語はネイティブのレベルには到底及ばないレベルでした。しかし、彼が教えを請うてきた内容は、漢字や単語ではなく、その記事の背景となっている日本の常識でした。その上達の秘訣を聞くと「日本語や英語の本を読んで、勉強した」との返事でした。この若者のような人との出会いは、日本の都市では日常茶飯事であり、アメリカの大都市でも見受

けられます。

そうです。答えは「勉強」。特に書物を通しての「知識や慣習」の理解なのです。確認しておきましょう。「日本の自然や社会の環境の中で生活していない人が、日本人の大人としての知識や慣習を理解する方法は、書物を通しての出会いや学習である。」ということです。もちろん、私達日本人を親に持つ子ども達は、日本語能力も高く、基礎的な知識や慣習は既に身につけていると思います。しかし、彼らが「日本人の大人」としての常識をしっかり身に付けるためには、成長の最終段階で「書物」から、自分自身で学ぶことが必要なのです。

「書物」から学ぶ為には？

我が家の子どもの場合には「日本語で大人のレベルの本が読める」ような力が、子どもが必要と感じた時に「書物」から学ぶために欠かせません。

その力は、どうしたら子どもの身につけさせること出来るのか？その力は「日本語力」と「読書力（読解力）」に分けられます。「どちらが重要？」と問われれば、私は「読書力」と答えます。

これまで「常識」は「知識や慣習」の理解だと言ってきました。これらの理解とは、その中身を知ることです。言葉は、もちろん日本語で理解して欲しいと思いますが、どちらでも使いやすいほうで理解して構いません。内容の理解が重要なのですから。

そうすると、我が家の子どもが「読書力」をしっかり身に付ける方法が問題になりますが、この答えは簡単、「現地校での勉強」です。

「読書力」は現地校？

なぜ、そんなに簡単に「現地校」に軍配を上げたのか、不思議に思う方もおられるでしょう。その説明をします。もう少しだけお付き合いを。